

平成24年度第7回教育研究審議会議事要旨

- I. 日 時：平成24年9月27日（木）13時30分～15時40分
- II. 場 所：第1会議室
- III. 出席者：足立理事長、川田理事、塩川理事、菅理事、勝矢経済情報学部長、寺杣芸術文化学部長、稲田美術学科長、大西教授、藤澤教授、吉原教授
陪 席：川西事務局長、石井総務課長、渡邊学務課長、山根企画広報室長
- IV. 平成24年8月23日に開催した第6回教育研究審議会議事要旨（案）について
原案どおり、承認された。
- V. 議 案
 1. 大学院入学試験合格者について
委員から、「大学院入学試験合格者」について、資料に基づき説明があり、審議の結果、2名の合格が承認された。
 2. 編入学試験合格者について
委員から、「編入学試験合格者」について、資料に基づき説明があり、審議の結果、2名の合格が承認された。
 3. 平成25年度大学院美術研究科の科目の変更について
委員から、「平成25年度大学院美術研究科の科目の変更」について、資料に基づき説明があり、審議の結果、版画制作演習を絵画総合演習に変更すること、及びこれを担当する教員の選任に当たり3名の非常勤講師に委嘱することが、承認された。
 4. 平成25年度大学院美術研究科の非常勤講師について
委員から、「平成25年度大学院美術研究科の非常勤講師」について、資料に基づき説明があり、審議の結果、非常勤講師の予定者のうち1名が定年年齢である70歳を超えているが、余人をもって代え難いため、来年度も継続して委嘱することが、承認された。

VI. 報告事項

1. オープンキャンパスについて

広報委員長から、オープンキャンパスの結果について、資料に基づき説明があり、「本年度の参加者は1, 100名で、昨年度の1, 060名を40名超え、アンケートにおいて大学の印象はよかった」と報告があった。また、「本年度の翠郷祭では、本学の紹介ブースとして『大学受験相談コーナーin 翠郷祭』を設置する予定である」との報告があった。

2. 高等学校進路指導担当者との懇談会について

広報委員長から、高等学校進路指導担当者との懇談会について、資料に基づき説明があり、「出席校99校、出席者110名、施設見学者16名であった」と報告があった。

3. 文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」について

事務局から、文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」について、資料に基づき説明があり、「本件は不採択になった」との報告があった。また、委員から「広島県学事課から福山大学に、『国庫補助金不採択後の対応について、オール広島大学連携は進めたいと考えており、宮地茂記念館を共用キャンパスとして、東部4大学で活用することは出来ないか』と電話があった」との報告があった。

4. 文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」について

事務局から、文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」について、資料に基づき説明があり、「本件は選定され、補助金執行可能日は10月半ば以降の予定である」との報告があった。

5. 第6回就業力育成支援委員会の報告

事務局から、就業力育成支援委員会について、資料に基づき説明があり、「来年度のキャリア演習のカリキュラムの見直しを行っている、また、就業力育成支援委員会の名称をキャリア教育推進委員会に変更した」と報告があった。

6. 第11回翠郷祭について

事務局から、第11回翠郷祭について、資料に基づき説明があり、「ステージやテントの配置、タイムスケジュールが決まり、10月28日の開催

に向け、学生たちも準備をしている」と報告があった。

7. 平成25年度予算編成方針について

事務局から、平成25年度予算編成方針について説明があり、「既に通知済みであるが、中期計画の達成を目指して、誠実・着実・堅実に『健全な財政運営』を推進することを基本方針とする」と報告があった。

8. 平成25（2013）年度私費外国人留学生募集要項の一部変更について

事務局から、平成25（2013）年度私費外国人留学生募集要項の一部変更について、資料に基づき説明があり、「外国人住民の住民基本台帳制度への移行に伴い、出願書類中『登録原票記載事項証明等』を『住民票の写し等』に変更する」との報告があった。

9. 授業時間15コマの確保（学年暦）について

事務局から、授業時間15コマの確保（学年暦）について、資料に基づき説明があり、「これは、各委員会で検討した結果及び学生の要望を踏まえ、15コマの授業時間を確保するための平成25年度学年暦の案である」との報告があり、審議の結果、承認された。

10. 尾道学講座について

委員から、「地域総合センターの尾道学講座の今後の方向性について「尾道」をテーマにしたものから、各教員の得意分野を活かし、尾道市立大学講座のような名称での実施に模様替えし、街かど文化館の活用や図書館教養講座との合体等も検討していきたい」と報告があった。